

<スズキハイテック株式会社> No.1 基本情報

本社所在地：山形県山形市銅町二丁目2番30号

主要生産品：半導体・電子部品、自動車部品へのめっき

設立：昭和37年8月

資本金：6,900万円

従業員数：124名

経営理念：『表面処理業界のスタンダードになる』をスローガンに、お客様に、常に最高の満足を提供し続け、世界中どこでも表面処理工場といえれば引き合いに出されるような企業を目指し、全社員での改善活動により、日々品質向上に取り組んでいます。

ホームページ：<http://www.sht-net.co.jp/>



＜スズキハイテック株式会社＞ No.2 これまでの100年、次の100年

スズキハイテックの創業は1914年。現存するめっき会社で最も古い会社のひとつです。戦後はマシンやリヤカー、自転車などの部品へのめっきを手がけ、さらにスピーカーや通信部品のめっき加工で成長しました。

現在では、燃焼機関（エンジンなど）関係部品やトランスミッション関係部品などの自動車部品、宇宙・防衛部品、医療部品、半導体・車載電子部品のめっきなど、あらゆる業界へ展開していて、表面処理技術の幅広さは東北ナンバーワンです。

このように多くの業界に挑戦する背景には、環境の変化に適応するために仕事を見極める鈴木一徳社長の考えがあります。時代が変わる中で、当たり前のようにめっきへのニーズも変わってきます。

例えば、これから自動車業界でEV（電気自動車）が主流となってくると、エンジンやトランスミッションがなくなるため、めっきするモノが少なくなってしまうます。また、環境規制が厳しくなると使えない表面処理薬品・材料が増える可能性もあります。

「この仕事をやっていると恐ろしいよ」と語る鈴木社長。それは、昨日まではもっと伸びると考えていた仕事でも、次の日には新しい技術が開発されて状況がガラッと変わってしまうことがあるからです。

スズキハイテックは環境の変化を見越して、次の手、さらに次の手を打っています。メキシコや中国への進出もその一環です。ただし、やみくもに規模拡大を追って営業活動や設備投資をするのではなく、じっくりと腰を据えて安定した経営をしているのがすごいところ。

創業100周年を超える企業は伊達ではありません。

（人文社会科学部4年 古川、3年 外山）

東北No.1 全業界の表面処理技術に精通 【Confidential】

自動車部品へのめっき 防食防止用の硬質クロム・無電解ニッケル・亜鉛合金めっき等
トランスミッション関係部品

燃焼機関関係部品 硬質クロムめっき 硬質クロムめっき 無電解ニッケルめっき 亜鉛めっき

宇宙、防衛部品へのめっき 導体部抵抗の調整、ボンディング性向上を目的とした金めっき

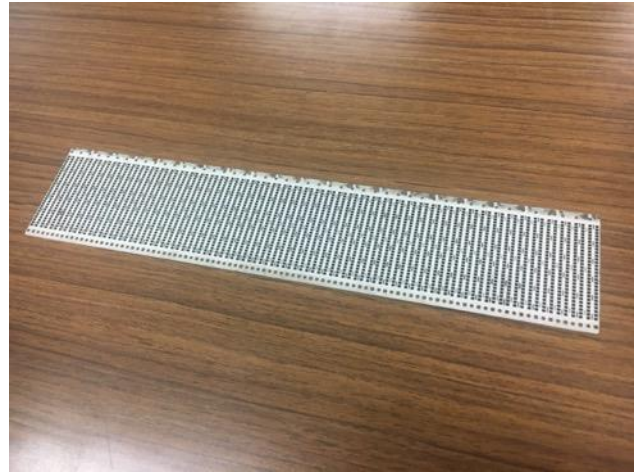
医療部品へのめっき 精密電鍍・MEMS・医療機器処理

半導体/車載電子部品へのめっき 基板接合用外部リードへの銅合金めっき

9
ススキハイテック株式会社



めっきが施された部品



<スズキハイテック株式会社> No.3 熱いハート！

スズキハイテックを語るのに社長は外せません。とにかく熱い。パワフル。

5代目である鈴木一徳（47）社長は若さは然ることながら、行動力が凄い。めっきの可能性や、時代に合わせためっき加工を見極めるために、自ら外国へ勉強に行かれるそう。取材した日も、前日までドイツに自動車技術の視察に行っていたほど。

海外へ勉強に行くのは、時代の先駆者となるため。海外の展示会に、外国語が話せなくても足を運ぶという社長の情熱には驚かされました。また、国内でも他企業との情報交換や人脈作りを積極的に行っているのだそうです。もうこれだけで会社愛が伝わってきますよね。

海外だけではなく、もちろん地域とのつながりも大切にしています。会社は地域と一体になることが必要で、その前提として地域に愛される経営ができなければいけないそうです。

会社全体として次の100年へ繋ぐための土台作りに奔走する鈴木社長。鈴木社長は、自分がいなくても「自ら前に進む企業」にしていきたいと語ります。インタビューを通して社長の熱い気持ちや、パワフルな人柄が垣間見え、その人柄が会社を引っ張っていると感じました。

（人文社会科学部3年 外山）

<スズキハイテック株式会社> No.4 社員一人ひとりを考える

スズキハイテックは、社長ではなく、社員一人ひとりが前に出るような企業を目標にしています。

現在は、黙っていても仕事ができる時代ではないため、グローバルに展開していくことはもちろん、営業や開発上の提案を積極的に行うとともに、全体の技術的レベルを向上させる必要があります。

そのため、鈴木一徳社長は、社員の提案に対して積極的に耳を傾けるように心がけているそうです。

様々な機会に社長が社員一人ひとりとコミュニケーションをよくとることで、社員が「自分はこの会社の一員として貢献している」という思いや、自分の存在意義が強くなるんだろうなあ、と思いました。

社員みなが戦力として活躍できるように社員教育にも力を入れていて、東京に派遣して勉強会に参加させたり、資格取得も会社で行えるようにしています。

顧客はもちろん、社員一人ひとりのために常に考えながら行動する経営者の責任は計り知れないし、偉大だなと感じました。

(人文社会科学部3年 羽田)

<スズキハイテック株式会社> No.5 地域の住民として

スズキハイテックがある山形市銅町付近は、昔から鋳物やめっきなどの金属加工業が集まっていたところ。それは、蔵王から流れる綺麗で豊富な地下水を使えるからであり、スズキハイテックもここに根を下ろしてきました。

しかし、現在では宅地化が進み、スズキハイテックは住宅街の中に位置しています。24時間稼働の工場であるため、音や光、空気、振動などに対して十分に、細かい配慮が必要です。

スズキハイテックは、この地域の「住民として」、地域の人とのかかわりを密にしています。

工場が周りの地域に与える影響を最小限にするために取り組んでいるのはもちろん、廃品回収に参加したり、地域のお祭りに参加したり。

地域で行われる様々な行事に対しても積極的に参加しています！

今まで経営してきた先代に学び、次世代にも、その次の世代にも

地域から信頼され続けるような企業であるために、社長自らが地域とのかかわりを強化させるべく地域活動や行事に参加し続けています！

地域があってスズキハイテックがある。

地域と共存して生きていく。

地域と一体になる。

この考え方が地域の人が安心して企業の成長を見届けられる環境を作っているのだと思います。

(人文社会科学部3年 羽田)